

いに作成し、この申立書を携えて、診断書を作成してもらう医師の診察を受けると、年金受給の可能性が向上することを説明しました。

小泉理事長から、基本的には、知的障がい生徒は、継続した精神科の受診をされている方は少ないため、年金申請以前に、精神科の受診をしておくことで、年金申請の相談に乗っていただきやすいとご本人の経験も含め、説明されていました。

最後に質疑応答の時間がありましたが、この時には、会場からの質問は特にはなく、終了しました。しかしその後、これまでの障害基礎年金の勉強会とは少し様子が違いました。

会場に残っておられた数名の方から、個別にご質問ご相談をいただきました。多くの方は、診断書作成を依頼する精神科医の探し方についてでした。

基本的には精神保健指定医を探していただくことをお伝えし、先輩の保護者からの情報を得たり、各区の基幹障がい者相談支援センターに相談してみることや、計画相談を担当する相談支援事業所への相談も一つの選択肢に成ることをお伝えしました。

また、社会保険労務士への申請の手続き依頼についての質問もありました。社会保険労務士は書類作成についての専門性は高いけれども、書類作成のための情報収集などは、やはりご家族で行う必要があること、成功報酬については、高額になることが多く、デメリットとなることもお伝えしました。

さらに数日後、お電話にて、計画相談の利用申請をして、事業所の調整中であることや、転医についてのご相談をいただきました。

勉強会後のみなさんの積極的な行動に感激し、このような形でみなさんのお役に立つことができ、私自身もあらためて強くやりがいを感じることができました。

#### 【「障害基礎年金の申請について」の講演風景】



今後の障害基礎年金の年金申請の際に、今回の講演会の内容が少しでもお役に立つことができるように願っています。貴重な機会を与えていただきました、生野支援学校、ならびにPTAの皆様、ありがとうございました。

#### きずな会の皆さんが『わかりやすい版 大腸がん』の作成に協力をしました

知的障がいや発達障がいのある方への情報提供の手段のひとつに、「やさしい日本語」があります。

大阪市育成会では制度やしぐみについて、この「やさしい日本語」を使った情報提供に努めています。

今回、知的障がいや発達障がいのある方への医療情報の提供ということで、(一社)スローコミュニケーション(理事長 野澤 和弘氏)が、厚生労働科学研究費補助金事業を受け、知的障がいのある人も読める大腸がん検査についての冊子を作成するにあたり、当事者会の「きずな会」の方へヒアリングの協力依頼がありました。

#### 【打浪副理事長からの説明を聞くきずな会メンバー】



昨年12月には、(一社)スローコミュニケーションの打浪副理事長が来阪され、冊子の原案に対するヒアリングが行われました。当日は東京の国立がん研究センターの研究員、横浜の編集担当者と大阪のきずな会をオンライン会議で結び、難解な用語を分かりやすくするための方法について意見交換をしました。

今年10月には、大腸がん検査の冊子が完成したので、昨年と同様にオンライン会議を利用して、きずな会の皆さんにヒアリングがありました。今回、きずな会では完成した冊子を使って学習会もしており、その時に出てきた多くの意見を編集担当者に伝えました。

打浪副理事長からは、今後この「わかりやすい版」冊子が出来たことを医療関係者に広め、全国の医療機関に置いてもらえるように働きかけていく予定とありました。